

平成30年2月19日

東松島市議会議長 阿部 勝徳 様

(会派名) 清新会

代表者氏名 滝 健一 ㊟

会派活動実施報告書

東松島市議会政務活動費をもって、下記の会派活動等を実施したので、報告します。

1 会派活動の項目(該当を○で囲む)

調査研究費、研修費、広報費、広聴費、要望・陳情活動費、会議費

2 活動名称: 清新会視察研修事業

3 実施期日: 平成30年1月23日～26日

4 活動成果: (1) 古くから伝わる薬草栽培や野草を利活用し、6次産業化に漕ぎ着く手法を学べた。
(2) 土砂災害の発生原因や被害のメカニズム、自然災害の恐ろしさを再認識させること。
(3) 古くから美しい木造校舎を維持した活用がいろいろあること。

5 添付書類: (4) 防災センターでの消火、煙避難、地震、台風体験等により防災意識を高揚させた。

→ 会員報告書



清新会視察研修報告書

平成30年2月19日

滝 健一

1月23日奈良県宇陀市

宇陀市は日本最古の薬草採取があったところで、産業企画課職員の丁寧な説明を聴取した。

平成24年から始まった、関連事業活動での薬草の栽培経過を理解することができた。

又、薬草を製品化しこける現場を視察、販売に至るまでの厳しい作業の仕組みを克服したからこそ成功が伺えたところがある。

1月24日和歌山県那智勝浦町

和歌山県土砂災害啓発センターは、平成23年9月発生の台風12号での紀伊半島豪雨による土砂災害が契機となり整備されたものがある。

国り大規模土砂災害対策技術センターを中心にして、各関係機関が集まり、大規模土砂災

直にこの調査、研究、啓発を行なった日は唯一の施設、機関である。

研修室には、土砂災害の映像で、その概要や対応のあり方を学べるようになっていた。

1月25日 和歌山県田辺市上秋津

秋津野カレッジは、田辺市立秋津小学校の廃校を活用した農家の体験レストランなどをしているグリーンツーリズム施設である。

お菓子の体験工房やミカン作りの展示、歴史資料展示などがある。

レストランは郷土料理を中心に多岐メニューがバリエーションが秋式で揃っている。

おぼろしい取り組みではあったが、施設全体に訪れる人数に限ったところもあり、費用対効果に疑問を感じたところがある。

1月26日 奈良市

奈良市防災センターは、市民に防災知識や体験を啓発習得するための施設で、とても親

しきを感ずることかできた。

女性指導員に上り、防災センターを通りの説明の後、消火、煙避難、地震、台風体験等で、改めて防災意識の高揚ができた。

津波体験もできるような同様の施設が、宮城に整備されることも思ったところでした。

清新会会派視察について

熊谷 昌崇

和歌山県土砂災害啓発センターについて

昨今、豪雨による自然災害が全国のいたるところで起きている。平成 23 年 9 月の台風 12 号による紀伊半島大水害等の被害を繰り返さないために研究施設及び災害に記録及び研究成果を啓発するために作られた施設である。施設の設備は簡素な模型とパネル及びプロジェクターによるエンドレスな説明の映像が流れている施設であるが、将来的に東日本大震災の記録等の施設をもし、検討するのであれば、参考にはしない方が良いのではないだろうか。科学者や研究者が集うだけの施設であれば、十分と思われるが、小中学生の啓発活動に利用できる設備ではないと思う。しかしながら、昨今の予算が無い状況を鑑みると、仕方がないのかもしれない。

秋津野ガーデンについて

秋津野ガーデンは小学校の廃校を利用した農家の体験やレストランを行っている地域交流施設である。レストランは地域の郷土料理を中心に 30 種くらいの料理をバイキング形式で 850 円で提供している。地域の人々の交流施設としては生き甲斐にもつながるので、これからの人口減少社会における取組としては素晴らしいと思う。しかしながら、経済的な観点から考えるに、リピーターは果たしてどのくらいあるのだろうかと思料する。殆ど無いのではないだろうか。このような施設は全国的に普及していくと思うが、如何にして採算を確保し、利益を分配してこそ地域の発展につながるのではないだろうか。これからの取組を注視して見ていきたいと思う。

奈良市防災センターについて

今まで、全国の防災センターを見学してきたが、その施設の中でも一番、役に立つ施設ではないかと率直に思う。なぜなら、体験できる施設が多いのである。訪れた人が実際に消火器を使える所や台風の強さ、地震の揺れ、ビルの中での煙の体験が出来るところが凄いと思う。やはり、このような施設は口頭や映像での説明より、体験する事が大事だと思う。将来的には、東日本大震災の教訓を教えるにあたって、市では無理でも、県の施設として是非とも検討してもらいたいと思う。

期 間:平成30年1月23日～26日

研修地:奈良県宇陀市、和歌山県那智勝浦町、田辺市、奈良市

第1日目 1月23日 奈良県宇陀市

【研修事項】人口減少社会に対する薬草栽培や野草を活用した6次産業化について

宇陀市は奈良県の北東部に位置し、人口約2万9千人、面積約248平方km、山林が全体の72%を占めている。主産業である農林業とともに、吉野葛をはじめとした伝統的な食品の製造や、毛皮産業などの地場産業もみられる。宇陀市と薬草の関係は飛鳥時代までさかのぼるとし、日本書紀によれば、推古天皇即位十九年(西暦611年)に宮中行事として「薬狩り」を現在の宇陀地域で行ったと記録されており、日本最古の薬草採取の記録とされている。日本書紀に記された薬狩りの様子を基に時代考証研究した壁画が星薬科大学(東京都)本館内に描かれているとし、そのレプリカが宇陀市役所ロビーの壁面に掲示してある。「薬狩り」の壁画は飛鳥時代を彷彿とさせ、宇陀市と薬草の深い関係性を物語っている。

「宇陀市薬草プロジェクト」資料にもとづき産業企画課職員の説明を受けた。プロジェクトは24年12月に始まり、種苗家、学識者などで方向性を模索した。25年、トウキ、アマチャ、ジオウなど試験栽培に取り組み、26年には市民に呼びかけ、50名ほどで薬草栽培説明会、研修会を数回実施、翌27年には35名でヤマトウキ(大和当帰)を本格栽培することとなる。現在は70名の生産者が栽培している。漢方薬の原料となるヤマトウキだが、実生して収穫まで2年、成長した株の根っこを掘上げて収穫、その後、長期間乾燥した後の出荷となり、販売は3年目に。収穫までの期間も長く、根っこの掘り起こし労力、湯もみ(手作業による泥の洗浄)、乾燥の手間暇も相当かかるうえに、農薬不使用は当然、連作は出来ないとしており、栽培面積、規模も限られてくる。このことから、買い取りしたウキ根の湯もみ、乾燥は市、県、市内法人、生産者でつくる「薬草協議会」で集荷、一括作業を行い、廃校となった体育館を利用している。

トウキの販売価格はkg当たり約2万円で、10アールあたりに換算すると約50万円の売り上げになるとしている。一方で、栽培農家への技術指導は奈良県の専門指導員(4名)が当たっている。6次産業化の点では、当帰の葉が2012年1月の薬事法改正で食用化が可能となり、地上部(茎葉を粉末加工)を活用し、栄養機能食品としての商品化も図られており、カレー、ドレッシング、せんべい、飴、入浴剤などが商品化され販売が取り組まれ品数も増加している。トウキはセロリのような臭いがして、冷え症、血行障害、強壮、鎮痛薬などの漢方「当帰」として処方され、主に婦人科系疾患に効果が認められている。

また、宇陀市は薬草との古い歴史があることに加え、ロート製薬、アステラス製薬(旧藤沢薬品)、ツムラ(ツムラ順天堂)、笹岡薬品の創業者を輩出していることも特徴的であり、薬発祥の地・薬草栽培の取り組みとの強い因縁が感じられる。

職員の案内でヤマトウキを乾燥している現場を視察した。販売までに至る3年間の手間暇、その大変さを改めて感じた。土地、気象条件(冬期は寒冷、夏は冷涼な内陸性気候)、指導体制、販売環境など様々な条件が整ってこそその薬草栽培、6次産業化という印象を得た。

第2日目 1月24日 和歌山県那智勝浦町

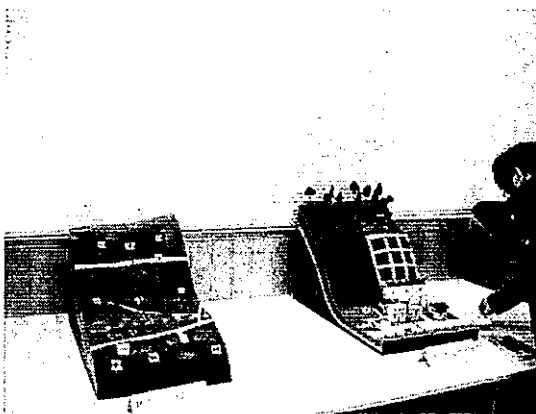
【研修事項】「和歌山県土砂災害啓発センター」視察

同施設は、平成23年(2011年)9月の台風12号による紀伊半島大水害による甚大な土砂災害を契機に設置され、国の大規模土砂災害対策技術センターをはじめ関係機関が集まって深層崩壊、大規模土砂災害の発生メカニズムに関する調査研究を実施している。あわせて、展示パネルや映像を通じて、研究の成果を広く発信するとともに、過去の災害の教訓を風化させず後世に継承するための啓発活動も行っているわが国唯一の施設である。

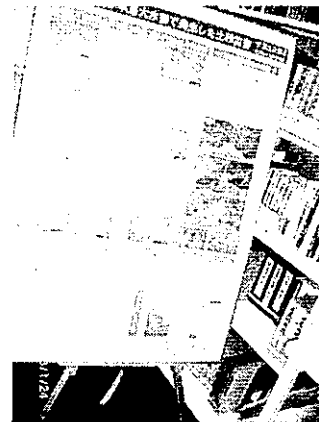
展示スペースにはパネル、モニターを通じて、紀伊半島大水害の記録や土砂災害の基礎知識を学べ、研修室では3種類の模型で土砂災害の起こる仕組みや、映像で大水害の概要や教訓を視聴できる。紀伊半島を襲った台風は、1600～1500^{mm}と観測史上最大の降水量を記録し、土砂災害、河川の氾濫が発生して60名余(うち、那智勝浦町では29名)の犠牲という最悪の結果を生じた。映像にもあったが「今まで洪水にあったが、こんな被害は初めて」と古老が驚きの表情で訴えている。我々が経験した東日本大震災・大津波同様、まさに自然災害には人知が及ばず、速やかな避難しかないことを改めて知った。普段から自然災害への警戒を心がけることを忘れてはならないと感じた。



[和歌山県土砂災害啓発センター]



[土砂災害の模型]



[パネル展示]

第3日目 1月25日 和歌山県田辺市上秋津

【研修事項】「秋津のガーデン」視察

同施設は、田辺市立上秋津小学校の跡地を利用したグリーンツーリズム施設。平成20年11月、地域住民の出資により開設(農業法人(株)秋津野)。都市と農村の交流活動、スローフードバイキング料理を提供する農家レストラン、宿泊施設、お菓子体験工房、旧木造校舎を生かしたミカン作りの展示・歴史資料館などからなっている。懐かしい木造校舎、長い廊下、木の窓枠など昭和の時代に戻った感覚に浸れた。また、地域の主要産業のミカンの知識も広く学べ、木造校舎を眺めながら農家レストラン「ミカン畑」の食事が味わい深く、懐かしい時代にタイムスリップし、ゆったりとした時間を味わうことが出来た。廃校の活用方法はもとより、味わう、見る学ぶ、食品加工、農業体験、泊まるなど、農村地域からの多様な情報発信の在り方など日常では触れることの出来ない場所を視察・体験できた。



[秋津野ガーデン(旧上秋津小学校)]



「農家レストラン・ミカン畑」



[見学に先立ち]

第4日目 1月26日 奈良市

【研修事項】「奈良市防災センター」視察・防災体験

奈良市防災センターは体験学習や、講習会を通じて市民に防災知識を啓発・習得するための施設で、奈良市消防局に隣接して立地している。

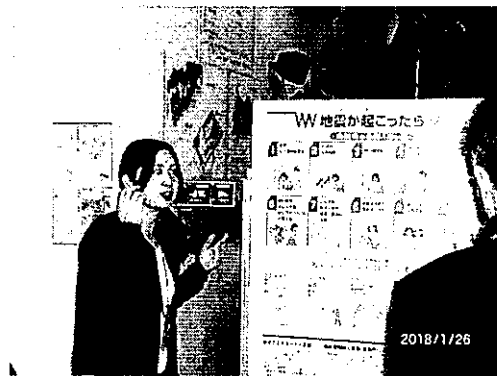
指導員による施設の概要説明があり、体験コーナーでは、①壁面パネル火災の映像に向かって訓練用消火器を使って消火ポイントに放水する「消火体験」、②火災で煙が充満した部屋(迷路)を非難する「煙避難体験」、③震度1～7までの地震の揺れを体験、発生が予想される東南海・南海地震の揺れを体験出来る「地震体験」、④台風を想定した風、風速20m/sを体験する「台風体験」があり、指導員の指導の下に身をもって防災の意識と行動力を高める体験となった。

煙避難体験では、真っ暗闇の中を誘導標識(ピクトマーク)の薄明かりのみが頼りで、判断を誤り脱出できずに焦る不安な体験をした。非日常とはいえ、外出先やホテルなどで万が一の場合を考えると、果たして冷静な判断で避難出来るかどうか、大いに疑問と感じた。

また、指導員とのやりとりで東日本大震災・津波の被害、避難の状況など東松島市の状況を紹介、「想定外」への備え、素早い避難行動が最重要であると改めて認識した。



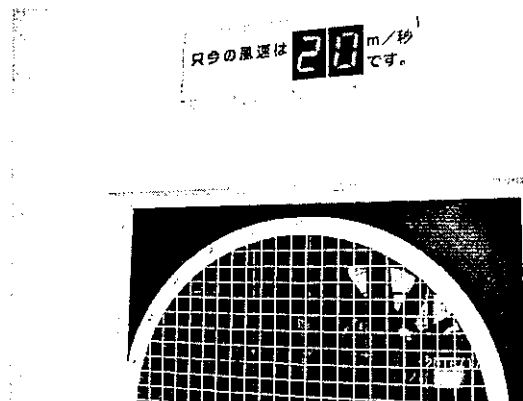
[奈良市防災センター]



[指導員による説明]



[消火体験コーナー]



[台風体験・風速20m/s]

清新会 視察 平成 30年 1/23 ~ 1/26

あべとしと
No. /

1/23 連日の最強寒波による寒さと積雪のため、東松島市役所集合の朝6:00 ~ 5:00 ~ 最終的には朝7:00集合となりました。

朝2時に起床、娘が湯かまをこし、朝3時集合に遅れ出た。

雪降中、何事もなく、ゆっくりと三陸道を通り、仙台空港に着いた。一番乗りが早かった。しほらくし雪は止んだ。xか3層の2と教時間おのずか勢いで空港内の除雪がはじまった。7:55発が9:30発? にかたかな。まおけに伊丹空港についた。前の飛行機が何かに遅れというところ、しほらく上空で旋回してから着陸した。

すいし、レンタカー会社に行くと、^{全国}最強寒波なのと東北地方と関西地方は異なるといふ。スタビス使用が常識と思、2.1とか2.3は1-2マイル、しほらくは2.4、xは甲斐市で修理。熊谷君はスタビスをはずし車と交換に……。xかかカリ、速方の5.0で変更した。2.9の経験は、しほらくの2.9、反復点があげられた。

xかおとあま、1日目の奈良県大和郡に設置する甲斐市大和高原とゆばい緑豊かなまふ。甲斐市薬草プロジェクトについて。このプロジェクトはH24年12月~はじまり、試験栽培始動(大和県)はH25年4月~とまふ日は浅い! 市民は健康に生かか、感じている。薬草に興味を持って、健康管理をしよう。楽しみながら栽培している人もいふ。まふ=9=とど、大和雇用はつながらない!

推進指針の中心は、甲斐市薬草協会が活動、市が大きく応援して、協会を動かしている。

3町(村)が合併して3.2万人の人口になる。日本書紀によれば、甲斐市は日本最初の薬種(アケボノ)の記録あり、甲斐市薬草推進協議会が、薬の原料の地として、薬の産地にある。

名産の大和トウモロコシの生産者であったが現在は 加齢で栽培に
栽培面積の拡大が難しく。良質の産地での研修を希望している。

このところの天候により健康寿命が延びてきた。

しかし向退は。収穫は2年に1回。3年耕作すると土地を
荒らして産棄を目標し成功しては販売の販路から。葉は野菜
に使用している。大和トウモロコシをみれば「くすくす」
と笑う。最も良薬は口にながしかせたい。

業に専らに力がかかり手間がかかり ひとりでこなすのが
辛い。配である。他に何かをやらせたい。市の協
力をかかげたい。いろいろな面で本市にも期待したい。

もう一つは、おきてい事がある。宇陀市の職員の手で
市役所の終りのフェニックス、これも親切な対応をしていただき
感謝したい。

1/4 2日目の熊本県土砂災害啓発センター

これは、日本唯一の土砂災害啓発センター。大きな駐車場設備
が揃っており、防災のための有効な取り組みが学べる。

9月2,3,4日台風1号は自転車の速度で中国四国地方を
中心の東側に当たった。北九州半島は観測史上最大の降水量

4日未明熊本県新宮町では1時間当たり100ミリ～130ミリの降水量となり
天の恵が取り過ぎた。被害総額は20億円。

この惨状は土砂災害、河川の氾濫となり死者も不明である
歴史上有名な結果となる。

このセンターは過去に発生した甚大な土砂災害の記録を後世に
伝えること。防災減災が学べる日本唯一の施設。

あへとしら
る

世界遺産の地に建てる施設であり、人と自然がどう向き合っ
ていのかを複合的に学ぶ所。地震や津波にけりおた
土砂災害の防止を学ぶことができた。

1/25 木3日 秋津野ガルテニ

*ガルテニとはドイツの言葉で農家の人が作って来た

みかん、梅などの果樹栽培が盛んで四季を通じて種々のみかんが
栽培され旧秋津小学校の跡地を木造校舎を利用したグリーンツリ
ズム施設「秋津野ガルテニ」都市住民との交流や地域の世代間
交流の場として活用されているということ。おもしろい所が
所がした。

木造校舎をこのように利用してグリーンツリズムを
いのかと思っただ、校舎はただみかんの木、古くなっただけ
宿泊施設に利用しているらしい。体験(とまっ)する
施設もあってか……。ガルテニ内の倉庫にいまして
スノーフードといふは「まじい」が「東地地方の農家レストラン
から見れば」<SP>のなにか「まじい」の。

秋津野の宣伝とは大まかに違ひ。本市のおおきな町い出た。
最初は秋津野もにぎわっていらあうと。校舎にしては
農家レストランにしては ひと作工夫もふた工夫も欲しい。
毎年何かしら考えていかないと。まじいおもしろい本市もひとこらえたい。

1/26 木4日 奈良市防災マラソン

この奈良の防災マラソンでは案内の者と消火体験から
火事の際の1-17がたおと実際に体験した。中でも、20m9
風の強さは、外からの強度をとりまねるため、果て強さ

むくり。私の体の重さを吹飛ばされた。

又スゴクに震度の地震体験をしたが、あつちの
奈良市の管水け^水地震の経験が、いかに防災について
危険にさらされるということ。

その災害はいつかかわかす。早朝・昼・夜・真夜中
あたりと……。備えておくにしろといふ。

全国どこにいても防災に対する意識は向上している。
本市においても、震災や津波を忘れることが、後世に伝
承に備えなければならぬ。とあつちの感じた。

清新会視察研修報告書

阿部勝徳

○奈良市防災センター 平成 30 年 1 月 26 日

奈良市では、市民の防災意識の向上と災害時に不可欠な防災知識を学ぶことを目的に、防災センターを建設し広く市民の利用を促している。

開館は平成 7 年、阪神淡路大震災の年であるが計画はその何年か前ということだった。とかく大災害を経験し、その必要性を認識してから建設に至ることが通例のように感じるが、奈良市の防災力向上にかける思いが、この防災センター建設に至ったと思料する。

館内には防災用品の展示のほか、自由体験コーナーとして（ビル火災と避難方法・119 番通報）（防災 Q&A）（緊急地震速報展示装置）が体験できるコーナー、また、体験コーナーとして「消火体験」練習用の消火器によるてんぷら油（映像）の消火体験。「地震体験」として震度 1～7 の地震や日本で発生した過去の代表的な地震の揺れの再現や、今後発生が予想される東南海・南海地震の揺れが体験できる装置。「煙避難体験」煙が充満した（勿論無害）迷路のような部屋から実際に避難する体験。「台風体験」台風を想定した風速 20 メートルを発生する装置。などが設置されている。実際にすべて体験してみたが、防災の知識と意識の向上に大いに役立つと感じてきた。

視聴覚室に於いては、団体向けに映像による防災研修や、応急手当普及講習、救命講習なども行われている。

○所見

復興途上にあること、そして財政状況から同様な施設は無理かもしれないが、震災の伝承と共に市民の防災意識の向上と防災知識の習得に大いに有効と思う。今後、広域による整備など検討すべきである。